

ネパール・ヌワコット 洪水被害の状況＜第三報＞

発行：2026年9月7日

現地NGOパートナー シグラジ・タマン氏からの報告



■ビドウル市街地の基幹水道が全壊 約5,000世帯が水を断たれています

ビドウル市の水道被害の全体像

現地NGOパートナーのシグラジ・タマン氏から、ビドウル市の給水状況についての報告が届きました。同氏はビドウル市第7区の区長および市の飲料水事務所（Water Supply Office）からの情報を提供しています。

今回の洪水で、ビドウル市街地の約5,000世帯に水を送っていた基幹水道システムが壊滅的な被害を受けました。水源と送水施設は被災地域に近い北側にあり、直径約36センチのDI（ダクタイル鋳鉄）管が約5kmにわたって流失しています。

給水が止まっているのは、コロニー、バグタール、ハティガウダ、プラスター、トリシュリ、ドウンゲ、ビドウル、バッタール、ピパルタール

イナルパティの各地区。私たちが長年活動が続けてきた町の中心部が断水地域となっています。

飲料水事務所は、復旧に約5,000万ネパールルピー（5クロー／日本円で約5,300万円）が必要と見込んでいます。市の一事務所が単独で担える規模ではなく、これまでに支援を申し出た団体や行政機関はまだありません。

HFIは小さな団体ですが、この既存システムの復旧を部分的に支える形で何ができるかを、さらなる情報収集をし、行政側の意見にも耳を傾けて検討しています。まずは損壊箇所の技術調査と正式な復旧費用見積りの確認を進め、HFIが担える範囲を見極めたうえで支援内容を決定し、次報でご報告します。

※国連衛星センター（UNOSAT）は8月27日、「ヌワコット郡における土石流・氾濫範囲の衛星検出図（2026年8月26～27日時点）」を公開。翌28日にはラスワ・ヌワコット両郡の被害評価図も公表しています（unosat.app.cern.ch／ReliefWeb）➡3頁参照

- 市街地の基幹水道システムが全壊
- 約5,000世帯が今も断水状態
- 直径約36センチのDI管が約5km流失
- 復旧費用は約5,000万ルピー（約5,300万円）
- 支援を申し出た団体・行政は現時点でなし

被災された家族のいま 避難生活と支援の状況

吊り籠（現地名：タルパトロリー）で川を渡る住民
➡



■避難センターでの生活が続いています 支援物資は届き、住民同士の助け合いも

避難生活と物資の状況

被災された多くのご家族は、いま2か所の一時避難センターで生活しておられます。

ご自宅が流失または損壊し、戻れる見通しが立たないご家族が中心です。食料や衣類をはじめとする支援物資は、政府機関、地元の団体、教会や地域グループなど、さまざまな担い手から届けられています。

いっぽうで、調理用のガスが不足しており、ご自分たちで食事を用意することが難しい状況が続いています。ネパールの家庭ではLPガスのボンベが一般的ですが、道路の寸断と流通の混乱により、避難センターまで十分な数が行き渡っていません。ドローンや、写真にあるような釣り籠で米や豆などの食材が届いても、火を使えなければ食事にはなりません。

避難生活が長引くなかで、温かい食事をとれるかどうかは、心身の健康に直接かわります。とくに乳幼児、高齢者、持病のある方にとっては切実です。現地からは、この点がいま最も差し迫った不足として繰り返し伝えられています。

- 2か所の一時避難センターで生活
- 食料・衣類などの物資は届いている
- 調理用ガスの不足が続いている
- カトマンズ→ゴルカ→ダディン→ヌワコット経由で輸送
- 住民同士の助け合いも各地で進んでいる

物資の輸送と地域の助け合い

支援物資は、各団体が組織したボランティアチームが、地元警察の協力を得ながら配布しています。警察が同行するのは、道路や橋の安全確認と、配布時の混乱を防ぐためです。物資はカトマンズからゴルカ、ダディン、ヌワコットを経由して車両で運ばれ、そこから北部の村道を通って被災地へ届けられます。

この経路は、直行路が土砂で寸断されたための迂回路にあたります。雨が続くと通行が止まる区間も残っていますが、全体としては、必要としている方々のもとに物資が届いているとの報告です。ただし配布は各団体の善意にもとづく単発の支援が中心で、いつまで続くかの見通しは立っていません。

地域では、住民同士の助け合いも広がっています。食料、衣類、医薬品、調理器具、衛生用品など、手元にあるものを、より困っているご家族と分かち合う動きが各地で見られます。自宅の被害が比較的軽かった世帯が、避難中のご家族を受け入れる例も報告されています。



助け合いの輪と、ご家族に届いた支援

被災された地域では、住民同士が支え合う姿が各地で見られます。食料、衣類、医薬品、調理器具、衛生用品など、手元にあるものを、より困っているご家族と分かち合う動きが広がっています。

こうしたなか、HFIの現地パートナーHFSNは、被害を受けたご家族に、現金による生活支援を開始いたしました。必要なものをご自身で選んで買い求めているだけの形の支援です。

お渡ししたご家族のなかに、二人のお孫さんを育てているおばあさんがいらっしゃいます。お孫さんのお父さんは今回の洪水で流され、お母さんは海外で働いておられて、家にはいません。おばあさんは、この子たちの学びだけは続けさせたいと、教育費のご支援を願っておられました。

水力発電所で行方不明になった、HFIが支援している子どものお父さんは、いまでも見つかりません。ご家族は情報を待ち続けておられます。私たちも続報を見守りつつ、子どもたちの学びを支える方法を検討してまいります。



▲ 土石流で被災した市街地の様子（ビドウル市／現地パートナー撮影）。川沿いの建物は、被害も大きく、2F以上の部屋にも土砂が堆積、流れ着いた水牛の死骸も…

衛星画像で見る被害の範囲（国連衛星センター UNOSAT）



図の中央、トリシュリ川沿いの「Bidur」が、今回断水しているビドウル市街地です。氾濫の帯が市街地を貫いており、現地からの報告と国連の衛星解析は同じ被害像を示しています。

なお、EUのコペルニクス緊急管理サービス（EMSR927）は、ラスワ郡を含む6地区を対象に別途、緊急マッピングを実施しています。UNOSATが示すヌワコット郡の氾濫範囲と合わせて読むことで、上流のラスワ郡から下流のビドウル市までつながる一連の被害の広がりの確認ができます。➡4頁に続く

* 出典：UNITAR／UNOSAT（2026年8月27日公開・暫定解析）／Sentinel-2（Copernicus・ESA）、PlanetScope（Planet Labs）

図の中央、トリシュリ川沿いの「Bidur」が、今回断水しているビドゥル市街地です。氾濫の帯が市街地を貫いており、現地からの報告と国連の衛星解析は同じ被害像を示しています。

なお、EUのコペルニクス緊急管理サービス（EMSR927）は、ラスワ郡を含む6地区を対象に別途、緊急マッピングを実施しています。UNOSATが示すヌワコット郡の氾濫範囲と合わせて読むことで、上流のラスワ郡から下流のビドゥル市までつながる一連の被害の広がりが確認できます。

■国際機関による被害評価（コペルニクスEMS・EMSR927）

- ・8月26日、氷と岩の雪崩がレンデ・コーラ川を一時せき止め、氷河湖決壊（GLOF）とみられる鉄砲水が発生。水位7mを観測。
- ・トリシュリ川が氾濫し村落・道路・水力発電施設が被災。政府はインド・中国に救助支援を要請。
- ・EUのコペルニクス緊急管理サービスがビドゥルを含む6地区を緊急マッピング（解析継続中）。
- ・暫定：建物4,685棟、道路70kmが被災、約7,600人に影響の可能性。

出典：Copernicus EMS（EMSR927）／AP通信 2026年8月26日

皆さまへのお願い

ビドゥル市街地では、今も約5,000世帯が安全な飲み水を得られない状態が続いています。

HFIは、小さな団体ですが、現地パートナーと連携し、現地行政や、その他確かな情報にもとづいて支援の可能性を検討してまいります。

ネパール災害支援とご指定がありいただいたご寄付は、ビドゥル市街地の基幹水道の復旧支援に充当します。技術調査と正式見積りの確認を経て支援内容を検討してまいります。

■これまでのご報告

第一報 2026年8月の豪雨によるネパール・ヌワコット郡の洪水発生と、初期の被害状況をお伝えしました。

第二報 HFIの事業地である第7区の被害と、現地の生活状況についてご報告しました。

第三報（本号） ビドゥル市街地の基幹水道の全壊と約5,000世帯の断水、避難センターで暮らすご家族のいまをお伝えしています。

次報では、損壊箇所の技術調査と正式な復旧費用見積りの結果、そしてHFIとしての支援内容をご報告する予定です。

■ご寄付の使いみち

- ・ビドゥル市街地の基幹水道の復旧支援（送水管・水源施設の復旧費用の一部）
 - ・一時避難センターで暮らすご家族への支援（調理用ガスなど、現地の求めに応じて）
 - ・現地パートナーとの調査・連絡にかかる実費
- ※技術調査と正式見積りの確認を経て、支援内容を確定します。

■今後の予定

- 9月中旬 損壊箇所の技術調査（現地パートナーが実施）
- 9月下旬 飲料水事務所による正式な復旧費用見積りの確認
- 10月 HFIとしての支援内容を決定し、第四報でご報告
- 以降 支援の実施状況と使途を、報告書とウェブサイトで公開

■寄付金受付口座■

ゆうちょ銀行 振替口座（口座名：NPO法人HFI） 00160-1-374014

ゆうちょ銀行 通常貯金（口座名：NPO法人HFI） 10180-65527961

三井住友銀行 普通預金 二子玉川支店

（口座名：特定非営利活動法人Hope and Faith International）
3929626



オンラインでクレジットカードによる寄付ができるようになりました。ぜひご活用ください。

■HFIについて 認定特定非営利活動法人として東京都の認定を受けており、皆さまからのご寄付は寄付金控除の対象となります。事業報告書・決算書は内閣府NPO法人ポータルサイトおよび当法人ウェブサイトで公開しています。

■情報ソース 本報の被害情報は、現地NGOパートナーによるビドゥル市第7区区長および市飲料水事務所への聞き取りにもとづき、国連衛星センター（UNOSAT）の解析と照合したうえで掲載しています。復旧費用等は現時点の概算で、正式情報は順次お伝えしてまいります。

Nepal, Nuwakot Flood Update <Third Report>

Published: September 7, 2026

Report from Local NGO
Partner Sigurji Taman



■ **The main water supply in Bidur city has been completely destroyed, leaving about 5,000 households without water supply**

Damage at a Glance

Our local NGO partner, Mr. Sigraj Tamang, has sent a report on the water situation in Bidur, drawing on the ward chief of District 7 and the city Water Supply Office.

The flood destroyed the trunk water system that served about 5,000 households in the town. The source and transmission facilities lie on the north side, close to the disaster area, and about 5 km of 36 cm ductile-iron pipe has been washed away.

The areas cut off include Colony, Bagtar, Hattigauda, Plaster, Trishuli, Dunge, Bidur, Battar, Pipaltar

- Trunk water system destroyed
- About 5,000 households still cut off
- 5 km of 36 cm DI pipe washed away
- Restoration: approx. NPR 50m (JPY 53m)
- No organisation has yet offered help

and Inarpati. The town centre where we have worked for many years is now without water.

The Water Supply Office estimates restoration will cost about NPR 50 million (5 crore, roughly JPY 53 million). That is beyond what one city office can carry alone, and so far no organisation or government body has offered help.

HFI is a small organisation, but we are gathering further information and listening to the authorities to see how we can help restore part of this existing system. We will first follow the technical survey and the official cost estimate, judge what HFI can take on, and report our support plan in the next issue.

* On 27 August UNOSAT released a satellite-detected map of the debris flow and flood extent in Nuwakot District (26-27 August), followed on 28 August by a damage assessment for Rasuwa and Nuwakot. -> see page 7



■ Publisher ■ 4-10-20 Tamagawa, Setagaya-ku, Tokyo 158-0094
Makoto Fukui, Representative, Certified Specified Nonprofit Corporation Hope
and Faith International

Families Today

Life in the Shelters

Residents crossing the river by tuin (a hand-pulled cable basket) →



■ Life in the shelters continues — relief goods are arriving, and neighbours are helping neighbours

Shelter life and supplies

Many of the affected families are now living in two temporary holding centers. Most of them lost their homes or cannot yet return. Relief items such as food and clothing are being delivered by government offices, local organizations, churches and community groups.

At the same time, cooking gas is in short supply, and families find it hard to prepare their own meals. LP gas cylinders are the normal fuel in Nepali homes, but broken roads and disrupted distribution mean too few reach the centers. Rice and lentils arrive, but without fire they cannot become a meal.

As displacement continues, a warm meal directly affects physical and mental health — especially for infants, older people and those with chronic illness. Our local partner repeatedly reports this as the most urgent gap right now.

Relief goods are distributed by volunteer teams organized by each group, with the



Distribution and mutual aid

cooperation of the local police, who check the safety of roads and bridges and keep distribution orderly. Supplies travel by vehicle from Kathmandu through Gorkha, Dhading and Nuwakot, then along northern village roads to the affected areas.

This route is a detour, because the direct road is cut by debris. Some sections close when the rain continues, but overall the supplies are reaching those who need them. Distribution, however, depends on one-off goodwill from each organization, and how long it can continue is unclear.

Mutual aid among residents is also spreading. Food, clothing, medicines, cooking utensils and hygiene items are shared with families in greater need, and households with lighter damage are taking in displaced families.

* This page is based on a report received in early September 2026 from our local NGO partner, Mr. Singh Raj Tamang. Photographs of the centers and distribution are expected to follow.

- ❑ Living in two temporary holding centers
- ❑ Food and clothing are being delivered
- ❑ Cooking gas remains in short supply
- ❑ Route: Kathmandu → Gorkha → Dhading → Nuwakot
- ❑ Mutual aid among residents is spreading

Mutual Aid, and Help Reaching Families

Across the affected areas, residents keep supporting one another, sharing food, clothing, medicines, cooking utensils and hygiene items with families in greater need. In this situation, HFSN, HFI's local partner, has begun providing cash assistance to affected families, so that each household can choose and buy what it needs most. Among them is a grandmother raising two grandchildren. Their father was swept away by the flood and their mother is working abroad, so she is caring for them alone. She asked for help with school costs so that the children can continue their education. The father of a child supported by HFI, missing since the hydropower plant was hit, has still not been found. His family is still waiting for news. We are following reports from the field and considering how to support the children's education.



▲ Debris-flow damage in the town centre (Bidur, photo by our local partner). Along the river, mud reached rooms on the second floor and above, and a drowned buffalo was washed ashore.

Extent of the damage seen from space (UNOSAT)



In the centre of the map, along the Trishuli River, is Bidur — the town now without water. The flood band runs straight through the built-up area, and reports from the field match the UN satellite analysis.

Separately, the EU Copernicus EMS (EMSR927) mapped six areas including Rasuwa District. Read with the UNOSAT flood extent for Nuwakot, they show one continuous chain of damage from upstream Rasuwa down to Bidur. ➡ continued on page 8

* Source: UNITAR / UNOSAT (released 27 August 2026, preliminary analysis); Sentinel-2 (Copernicus, ESA), PlanetScope (Planet Labs)

In the centre of the map, along the Trishuli River, is Bidur — the town now without water. The flood band runs straight through the built-up area, and reports from the field match the UN satellite analysis.

Separately, the EU Copernicus EMS (EMSR927) mapped six areas including Rasuwa District. Read with the UNOSAT flood extent for Nuwakot, they show one continuous chain of damage from upstream Rasuwa down to Bidur.

■ International damage assessment (Copernicus EMS, EMSR927)

- 26 Aug: an ice-and-rock avalanche briefly blocked the Lhende Khola, triggering a flash flood reported as a GLOF; a 7 m water level was recorded.
 - The Trishuli River burst its banks, hitting villages, roads and hydropower; Nepal requested help from India and China.
 - EU Copernicus EMS mapped six areas, including Bidur (analysis ongoing).
 - Provisional: 4,685 buildings and 70 km of roads impacted, potentially affecting 7,600 people.
- Source: Copernicus EMS (EMSR927) / AP, 26 August 2026

A Request to Everyone

In Bidur town, about 5,000 households still have no safe drinking water. HFI is a small organisation, but we are working with our local partner and weighing what support is possible, based on the local authorities and other reliable information. Donations marked for Nepal disaster relief will go to restoring the trunk water system in Bidur. We will decide the details after the technical survey and the official cost estimate are confirmed.

■ Previous Reports

First report: the August 2026 floods in Nuwakot District and the initial damage.

Second report: damage in District 7, HFI's project area, and living conditions there.

Third report (this issue): the destroyed trunk water system, 5,000 households without water, and families in the shelters.

Next report: results of the technical survey and official cost estimate, and HFI's support plan.

■ How your gift is used

- Restoring the Bidur trunk water system (part of the cost of pipelines and source facilities)
 - Support for families in the temporary holding centers (cooking gas and other requested items)
 - Actual costs of survey and communication with our local partner
- * The final plan will be set after the technical survey and official cost estimate.

■ What happens next

Mid-Sept: technical survey of the damaged sections by our local partner

Late Sept: confirmation of the official restoration estimate by the Water Supply Office

October: HFI decides its support plan and reports it in the fourth bulletin

Thereafter: progress and use of funds published in our reports and on our website

■ Donation Acceptance Account ■

Japan Post Bank Transfer Account (Account Name: NPO HFI) 00160-1-374014

Japan Post Bank Regular Savings Account (Account Name: NPO HFI) 10180-65527961

Sumitomo Mitsui Banking Corporation Ordinary Deposit Futako Tamagawa Branch

(Account Name: Specified Nonprofit Corporation Hope and Faith International)3929626



You can now donate online by credit card. Please make use of it.

■ **About HFI** Certified As a specified nonprofit organization by the Tokyo Metropolitan Government, so donations are eligible for tax deduction. Our activity and financial reports are published on the Cabinet Office NPO portal and on our website.

■ **Information Sources** The damage information in this newspaper is published based on interviews with the ward chief of Bidur District 7 and the municipal Water Supply Office by our local NGO partner, cross-checked with UNOSAT analysis. Restoration costs are current estimates; official figures will follow.

認定特定非営利活動法人 Hope and Faith International

TEL&FAX 03-3707-6159 ✉office@internationalhf.net WEB:<http://internationalhf.net/>